

舵を切る 安全保障

平和・安全保障研究所理事長 西原 正氏 <下>

冷戦後、世界には平和の配当がもたらされると思われたが、全く期待外れになっている。新たな緊張要因が働き、力による現状変更を試みようとしている勢力が三つある。クリミアを強

制併合したロシア、イスラム帝国の再現を目指すという「イスラム国」、軍事力で対外膨張を企てる中国。大統領は出席した。いかに



地域は日米同盟しかなくなる。5年、10年で、だいぶ違う力関係が東アジアで見られるだろう。

担当が掛かっているから。で、中国への依存度が高く、日本にとっても地域の安定にとってもいい。豪州、フィリピン、ベトナムなど中国をけん制できそう

不安増幅する中国

中国の2015年の経済成長率を経済協力開発機構(OECD)は7.1%と予測しているが、国内問題の深刻さからいうと、実際

担が掛かっているから。汚職、貧富の差拡大、失業者増で社会不安が大きくなる。デモは年間20万件あるというし、大学卒業生の就職も大変だ。指導者は不満を外に向けようと外敵をつくるかもしれないが、抑えつけるのは長続きしないの深刻さからいうと、実際

で、中国への依存度が高く、日本にとっても地域の安定にとってもいい。豪州、フィリピン、ベトナムなど中国をけん制できそう

なところと、より仲良くしていくべきだ。

馬力ある増強を

日本の防衛費の国内総生産(GDP)1%というし

ばりは心理的にはまだあるが、それでは危機感が足り

インドも汚職、政府の非能率がひどいが、日本としてみれば中国へのけん制勢力としてインドを見ていくことが重要だ。

安倍政権下の日本はパワー

（小山哲哉編集局長）

アジアの均衡変える中韓「準同盟」

東アジアで重要な点の一つは、中国と韓国が急接近していること。北京での9月の抗日戦争勝利70周年記念式典に、米国の強い警告を振り切った韓国の朴槿恵大統領は出席した。いかに

1、2年前まで、韓国は経済的依存度が高まっているから中国に接近せざるを得ないと言っていたが、今

は米国より中国の力の方が役に立つと考えはじめた。統一に際し、南北が衝突する。それを中国が推す。中国と韓国は「準同盟」になるかもしれない。この

撤退を考えざるを得なくなるのではないか。そして、

中国と韓国は「準同盟」になるかもしれない。この

中国にくみする露

ロシアは石油を売ることに重要だ。

安倍政権下の日本はパワー

（小山哲哉編集局長）